「特別の教科　道徳」について

普段から道徳科の授業については、各学校で工夫して実践されていると思いますが、授業づくりで悩まれることはありませんか？

「特別の教科　道徳」の授業づくりにおいては、児童生徒の発達段階や特性を考慮し、指導のねらいに即して指導方法を工夫することが求められます。今回は質の高い多様な指導方法を紹介します。

1　「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」

教材の登場人物の判断と心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深める。

2　「問題解決的な学習」

問題場面について、児童生徒自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考える発問などを行う。

3　「道徳的行為に関する体験的な学習」

問題場面を実際に体験してみたり、問題に対して自分ならどういう行動をとるかという問題解決のための役割演技をしたり、様々な問題や課題を主体的に解決する。

参考資料：「特別の教科　道徳」の指導方法・評価等について（報告）　道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議

今回は、２の「問題解決的な学習」を取り入れた道徳科の授業づくりについて紹介します！

○　問題解決的な学習を取り入れるねらい

道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

○　授業における発問の工夫

導入	○　具体的な経験や事例から授業のねらいに迫る発問 ○　授業で取り上げる道徳的価値についての発問 ○　予備知識を提供する発問（教材を理解するために必要な知識を確認する。）
展開	○　解決すべき課題（問題）を発見する発問 ・「ここでは、何が問題になっていますか。」 ・「何と何で迷っていますか。」 ○　解決策を自由に考える発問 ・「主人公はどのようにしたらよいでしょうか。」 ・「同じ場面に出会ったら、あなたならどうしますか。」 ○　解決策の理由や結果を考える発問 ・「どうして、□□しようと思ったのですか。」 ・「□□した結果、～はどうなりますか。」 ○　議論を深める発問（解決策を吟味する。） ・「その解決策について、相手の対場に立ったらどう思うでしょうか。」 ・「その解決策は、誰に対してもできるでしょうか。」 ○　「その解決策は、いつでもできるでしょうか。」 ○　「お互いが納得できる解決策はないでしょうか。」
終末	○　振り返る・感想を述べ合うための発問 ○　道徳的価値の理解の深まりを確認する発問 ○　今後に生かせるかを問う発問

参考資料：「問題解決的な学習で創る道徳授業　超入門」改編　柳沼良太

◎　これからの授業づくりにおいては、内容項目や児童生徒の実態、教材にあわせて、「問題解決的な学習」を取り入れて、授業を行ってみましょう。